第２回小山町の教育のあり方調査研究委員会 議事録

１　開催日時　令和５年１月１３日（金）午後２時３０分開会

２　開催場所　小山町役場 大会議室

３　出席委員　武井敦史委員長、岩田祥吾副委員長、鈴木重利委員、
田中清子委員、山口淳委員、斎藤美栄委員、杉本奈々委員
臼井聖香委員、相原正和委員、菅野桂太委員

４　出席した事務局職員等
髙橋正彦教育長、平野正紀教育次長、大庭和広学校教育課長、
小見山浩二学校教育専門監、坂本竹人こども未来課長、
中澤芳文学校教育課長補佐、池谷秀之こども未来課長補佐
滝口指導主事、湯山貴弘学校教育課主査

５　会議次第
（１）開　会
（２）教育長あいさつ
（３）委員長あいさつ
（４）議　事
ア　こども園、小・中学校の教育環境について
イ　小規模校のメリット、デメリットについて
ウ　統合、再編によるメリット、デメリットについて
エ　アンケート内容の検討
（５）その他
（６）閉会

７　議事録
※開会に際し教職大学院にて小規模校の活性化に関する研究をされている沼津市の佐藤教諭がオブザーバーとして今回参加されていることから、下記の通り挨拶があった。
佐藤教諭
大学院では、学校間連携をすることで小規模校の教育活動を充実させることができるかをテーマに研究を行っている。今回の会議に参加させていただき感謝しています。

（１）中澤学校教育課長補佐が開会を宣言した。

（２）教育長あいさつ

教育長

岸田総理が異次元の少子化対策を宣言しており決心は伝わってきた。しかしながら、新聞の解説ではこの施策の効果がでるのが２５年後との事であった。また、２５年後を想定して財政負担を考えると説明責任がとれるか心配であるとも書かれていた。

小山町としても人口対策に力を入れて取り組んではいるが現状難しい状況である。

また、町で生まれる子どもの数も減少していることから、この少子化傾向の問題は、特にこども園において早い段階で顕在化されるのではないかと思います。

本委員会も具体的な検討段階に入っていくわけですが、ぜひ皆さんの活発な意見をよろしくお願いします。

（３）委員長あいさつ

武井委員長

前回の委員会でいいスタートが出来たと感じています。今日からの委員会では前半に基礎的な知識を全体で共有化して、その後どうしたら良いかを検討する流れとなっています。その際に「明るく考える」ことを意識していただきたいです。

確かに少子化の問題、人口減少の問題は深刻かも知れないが、人口が減少するということは一人あたりの空間が増えることと考えることもできます。また、子どもが減ったとしても、健康寿命が延びているわけですので、その分長く充実した人生を送れれば、社会トータルとして下がらないと考えることもできます。小山町が今後、考えなければならないことは、全国各地で疲弊が進んでいるのは事実だが、その法則が小山町においても当てはまらなければならないという必然性はないということであります。日本がどんなに沈んでいこうが、小山町だけは元気であるために、皆さんが「明るく考える」ことが不可欠であります。暗くなってしまうと思考が委縮します。思考が委縮すると、停滞を食い止めるためにはどうしたらよいか検討した際に、他の事例を参考にしながら同じような施策をするという発想しか出てこなくなります。これをどう覆していくことができるかということです。

本日出席なさっている佐藤教諭は全国の様々な事例を調査しているため、皆さんにプラスとなる情報を提供できる可能性もあります。また、佐藤教諭にも有意義な時間を提供できればと思っています。使えるものは何でも使って良い形を作っていくのが本委員会であるのでよろしくお願いします。

（４）議事

武井委員長進行

ア　こども園、小・中学校の教育環境について

平野教育次長が「小山町教育振興基本計画」P3～P19 に基づき教育を取り巻く時代の潮流及び小山町の教育をめぐる現状と課題について説明を行った。

また、「令和４年度小山町の教育」P7 に基づき令和４年度小山町教育委員会グランドデザイン(教育方針)について説明を行った。

大庭学校教育課長が「令和４年度小山町の教育」P19、「別冊資料３」P8 に基づき学校規模について説明を行った。

坂本こども未来課長が「令和４年度小山町の教育」P20 にこども園の規模について説明を行った。

中澤学校教育課長補佐が「説明資料」P2～P11 に基づき校舎等の建築状況について説明を行った。

大庭学校教育課長が以下の事について説明を行った。

・「令和４年度小山町の教育」P21 に基づき学校の通学区域
・「説明資料」P12 に基づき遠距離通学
・「令和４年度小山町の教育」P23,P24 に基づき小・中学校の在籍者数の推移

坂本こども未来課長が「令和４年度小山町の教育」P25,P26 及び「説明資料」P13～P16 に基づきこども園等の在籍者数の推移について説明を行った。

大庭学校教育課長が「説明資料」P17～P21 に基づき今後の児童生徒数の推計について説明を行った。

滝口指導主事が「令和４年度小山町の教育」P27 及び「説明資料」P24 P25 に基づき教職員の構成について説明を行った。また、「令和４年度小山町の教育」P29,P30 に基づき就学奨励援助について説明を行った。

大庭学校教育課長が「令和４年度小山町の教育」P34 に基づき学校給食について説明を行った。

滝口指導主事及び坂本こども未来課長が「令和４年度小山町の教育」P35 に基づき放課後子ども教室及び放課後児童クラブについて説明を行った。

滝口指導主事が「説明資料」P22,P23 に基づき小山町の児童生徒の学力状況について説明を行った。また、以下の通り不登校児童生徒について説明を行った。

・小学生の不登校→１０名、全体の 1.1%
　中学校の不登校→２６名、全体の 5.9%
　この数値は全国平均と同程度となっています。準不登校(29 日以下の不登校)を合わせると倍程度となることから検討課題と捉えてい

ます。
また、「説明資料」P26,P27 に基づき部活動について説明を行った。
また、以下の通りＩＣＴ環境について説明を行った。
タブレットは全児童生徒に配布されており、WiFi 環境も全学校に整備されています。しかし、今後、デジタル教科書の本格導入やタブレットを使った学力調査が見込まれており、回線がパンクする可能性があることから、現在、役場内での検討を進めているところです。なお、デジタル教科書についてですが、令和４年度の実証事業として、小学校では英語と社会、中学校では英語と道徳を導入しています。令和６年度には英語を本格導入が決まっており、その後も少しずつ教科が増えていくことが見込まれているため、タブレットの有効活用についての議論が必要であると考えております。
また、「説明資料」P28 に基づき学校運営協議会(地域とともにある学校づくり)について説明を行った。
以下質疑応答
岩田委員
校舎の建築物は何年経過したら建て直さなければならない等の基準はあるか。
中澤学校教育課長補佐
明確な基準はありません。
武井委員長
一般的には鉄筋コンクリートの場合の耐久年数は６０～６５年と言われています。それを過ぎてくるとコンクリートの中性化が始まり、中の鉄筋が錆びてきてしまうので、その前に中性化を防止し長寿命化を図ることが長寿命化改良の目的となっています。
なお、説明では老朽化が進んでいるとあったが、小山町の校舎は他の市町と比較すると、小山町が際立って古いとは言えないと思います。

（イ）小規模校のメリット、デメリットについて
大庭学校教育課長が「別冊資料２」P6～P17,P26～P30 に基づき適正規模・適正配置及び学校統合について説明を行った。P33～P38 に基づき小規模校を存続させる場合の教育の充実について説明を行った。

（ウ）統合、再編によるメリット、デメリットについて
大庭学校教育課長が「別冊資料２」P18～P26 に基づき学校統合に関して留意すべき点について説明を行った。
以下質疑応答
菅野委員
統合、廃合のメリット、デメリットは試算をしているのか

武井委員長
ざっくりですが延べ床面積に比例すると言われていまので、学校が町全体の公共施設の内、どのくらいの割合を占めているかに寄ります。どの自治体も４割から５割程度を占めていて、割合としては高い傾向にあります。小山町は学校が点在しているので、もっと高い可能性があります。
大庭学校教育課長
学校等長寿命化計画の中で、延べ床面積に単価を掛けて概算ではありますが試算はしていますが、あくまでも決まった単価に掛けて、２０年の大規模改造、４０年の長寿命化改良の試算をしている程度のものです。北郷小学校では児童の減少傾向が小さいため、長寿命化改良事業を実施していますが、今後の議論として、他の学校では過大な学校規模である可能性もあるので、このような委員会を立ち上げいる状況です。あくまでも統合ありきではなく、教育的観点から考えていきたいと思っています。

（エ）アンケート内容の検討
大庭課長
今後調査研究を進めるにあたってアンケート調査が必要と考える。目的については、調査研究委員会の設置要綱に基づき掲載している。
対象者及びアンケート内容について、事務局案はないため、本日委員の皆さんからご意見をいただき、議論していただいたものを次回の委員会で検討していきたい。

武井委員長
学校のあり方を検討していく際に、こんなことを聞いてみたい・知りたいという意見があれば皆さんから伺いたい。この意見ですべて決まるわけではないので、気楽に意見を頂ければと思います。

杉本委員
娘が中学３年で今年卒業するが、娘から北郷中学校は吹奏楽部、男子バスケット部が無く、本当は活動したいけれど部活動がないためできない子が実際にいると言っていた。このことについて、みなさんがどう思われているかを知りたい。

臼井委員
部活のことは色々と話題になっており、娘が中学校に上がったときにどうなるか心配している。また、先生たちの部活動に対する負担や、少子化が進むと吹奏楽部だと費用負担も大きくなることも予想され、これか

ら小山町がどのような教育をしていくのか、また保護者がどのような教育を希望しているかを知りたい。

相原委員
教育を良くするというよりも、地域の人が自分の学校にどの程度、関心があるか30～50代の親世代に聞いてみたい。その中で地域の一人として子供たちを見ていくことができる人たちが、小山町にどの位いるのか気になる。
武井委員長
親世代の教育関心がどのくらいあるか、そして地域に対してこだわりがどのくらいあるかということだと思う。

斎藤委員
子育て支援の観点になると思うが、未就園児・未就学児がいる世代だけでなく、町で結婚されていてこれから子育てを考えている若い世帯が、どんな町だったら子育てしながら親も楽しく過ごせ、仕事もできるかを整理して、そういう方の気持ちを聞いてみたい。今、園では入園の準備を進めているが、入園に際し保護者から入園できるか不安の声を良く聞く。子どもを預けられないと安心して仕事が出来ず、不安と背中合わせの保護者もいる。そういう方の意見を聞いてみたい。
武井委員長
年齢の低い子を持つ世帯の不安と希望の２点を聞くということと理解します。

田中委員
町の人たちが学校教育や子どものこれからについてどんな期待や願いがあるかを聞いてみたい。町の教育のあり方は、今の世代だけではなくこれからの世代に続いていくものなので。その中ではこどもたちの意見も大事にしなければいけないこともあると思う。
武井委員長
全般的な教育期待について伺うと理解します。このアンケートは学校をどう統廃合するかのアンケートではなく、あくまでこの委員会で行う議論のたたき台とするものと考える。

山口委員
町の人たちが望む教育環境への期待を聞いてみたい。また、調査対象についてですが、地域に関わることだからこそ、調査対象者の年齢層を幅広く(回答が出来る子供も含む)実施して欲しい。
武井委員長

子供に対する質問で、内容に丸を付けるだけで終わるような回答方式ではなく、例えば作文を書いてもらうなど関心を寄せてもらうことを目的とした聞き方も含めて検討する価値はある。

岩田委員
子供の意見を聞きたいと思う。一方、大人の関心事は学校の統廃合についてなので、自分の地区の良いところをアピールできるようなアンケートにすれば調査を通じて伝わるのではないかと思う。
武井委員長
アンケートにも色んな聞き方があると思うので次回以降検討していければと思う。

鈴木委員
足柄小学校では昨年から、地域とともにある学校づくりが実施されており地域との話し合いの中で地域全体で子供たちを育てていくということになった。しかし、個人情報管理の問題があり個人情報をどのように収集していくかが課題となっている。地域でも限界があり、行政からの情報提供も困難になっている。アンケート調査についても調査対象者に対する個人情報について検討したほうが良いと思う。
武井委員長
アンケートの聞き方が一部の極端な意見を持った人の回答が反映されるような聞き方は良くないし、また、誰が答えたか分からないような形でもよくない。あくまでも個人に対しての形が反映されるものではなく、町全体としてどういう形が良いか把握するためのアンケートという位置づけを明確化すべきである。例えば、学校を存続させるか、統合させるか２択をどちらかを選ばせる聞き方ではなく、どういう形が良いかこの委員会で案を作成した上で聞いていくのが本筋だと思う。判断の範囲を狭めない形で希望や期待と同時に不安も聞いていく。そのような形で、次回検討ではいくつかの項目ぐらいの大きなカテゴリーで検討できればと思う。

菅野委員
アンケートについては地域住民がどう考えているか意識調査にあたると思うが、説明でもあった国の適正配置に関する一般的なメリット・デメリットが示されているが、小山町民がこのメリット・デメリットのどの部分に一番関心があるかを聞いてみたい、また、それが地域ごとにどの位変わってくるのか興味がある。
アンケートとは別の質問ですが、施設の関係のことで、最近、施設老朽化に伴って危険な箇所が指摘されたり、早急に修繕しなければならないとかそういうトラブルが今後控えている等のリスクはあるか。

中澤学校教育課長補佐
老朽化が進んでいるため、リスクが全くない事はない。そういったことを含めて耐震診断であったり、例えば、今回の長寿命化改良工事を計画している北郷小学校では詳細な老朽度調査を実施している。それを他校でも実施できる調査かというと調査自体数百万の費用が掛かるため、将来的にリスクがあるか否かと言われると分からない。施設管理担当者として、毎日どこかの学校から施設の不具合の連絡を受け、施設修繕の対応に追われている。将来的に大きな指摘がないかと言われるとないとは言い切れない。
武井委員長
アンケートに関しては手引きを一つの参照軸として、小山町独自の独自性を検討してほしいという意見としていただいておく。施設のことは、例えば建物の下敷きになって亡くなってしまうかもれないリスクと雨漏りがしているリスクは別物として考え、この先のことは分からないが、セーフネットの部分は確保しながら、古いから直ちに変えていくというわけではなく、全体を見ながら対応していくというスタンスで良いと思う。施設も新しいか古いかと聞かれれば新しい方が良いと答えるのは目に見えているが、予算との関連で考えなければならない。判断に迷うときは、この委員会で参照していく形で進められれば良いと思う。

岩田委員
小山町産業医の意見として、子どもにケガがないよう、学校安全のために、どこか危険個所があれば、早期発見・改善をしていただきたい。
各学校では学校保健安全法を遵守しながら管理運営をしていただき、環境については教育委員会も関与すると思うのでよろしくお願いしたい。

山口委員
アンケートを実施する時に、地域の方が、本委員会が行われていることを知っているのと、知らないとではアンケートの受け取り方に違いがあるのではないか。本委員会の議事録や住民への情報発信を含めて考えていく必要があるのではないかと思う。
武井委員長
関心のある人が見られるようにアンケートにリンクを張り、ＱＲコード等で読み取ってもらえれば良いと思う。また、場合によっては委員会に来て頂いても構わないとも思っているが、問題もそれなりにあると思うので、来年度以降の課題ぐらいとしてワンクッションおいて対応していければと思う。

（５）その他

特になし

（６）中澤学校教育課長補佐が閉会とした。